

日時：令和5年8月25日（木） 12:45～14:40

場所：佐渡汽船株式会社新潟事務所 4階 第一会議室（オンライン併用）

- 議題：（1）佐渡汽船新潟港フェリーターミナル施設見学について
（2）駅の無人化に伴う安全・円滑な駅利用に必要な合理的配慮を目指して
（3）北陸信越管内におけるバリアフリー施策の取組状況について
- ・JR東日本株式会社新潟支社のバリアフリー化の取り組みについて
 - ・新潟空港ユニバーサルデザイン診断の状況について
 - ・信州ユニバーサルツーリズムについて
 - ・国土交通省における建築物バリアフリー化の取り組みについて
 - ・バリアフリー法におけるマスタープラン・基本構想について
- 基本方針に定める移動等円滑化の目標達成状況と管内の状況
北陸地方整備局・北陸信越運輸局のバリアフリー教室等の取組について



委員：

中村 美香（特定非営利活動法人 まちづくり学校 事業推進部コーディネーター）

島崎 敬子（新潟県立大学 名誉教授）

中原 敦子（社会福祉法人 新潟県社会福祉協議会 地域福祉課 課長）

藤沢 義範（国立高等専門学校機構長野工業高等専門学校 副校長 工学科教授）

猪井 博登（富山大学 都市デザイン学部都市・交通デザイン学科准教授）

明柴 聡史（富山短期大学 幼児教育学科 准教授）

山崎 勉（特定非営利活動法人 スペースBe 理事長）

川崎 昭仁（長野県社会福祉協議会 まちづくりボランティアセンター職員）

細川 瑞子（富山県手をつなぐ育成会 理事）

寺田 佳世（石川県リハビリテーションセンター 次長）

米島 芳文（社会福祉法人 石川県視覚障害者協会 理事長）

柳 博明（一般社団法人 新潟県聴覚障害者協会 副会長）

本田 美恵子（元・特定非営利活動法人 新潟市精神障害者団体連合会 代表代理）

土田 正栄（一般社団法人 新潟市老人クラブ連合会 会長）

上原 大祐（NPO法人 D-SHiPS32 理事長）

東日本旅客鉄道株式会社新潟支社 鉄道事業部 指令・サービス品質改革ユニットリーダー

西日本旅客鉄道株式会社金沢支社 地域共生室企画課長

北陸信越鉄道協会 専務理事

北陸信越旅客船協会 常務理事

北陸信越バス協会 専務理事

北陸信越地区タクシー協議会 専務理事

新潟空港ビルディング株式会社 常務取締役総務部長

新潟県交通政策局 交通政策課長

長野県企画振興部 交通政策局 交通政策課長

富山県交通政策局 広域交通・新幹線政策課長

石川県 企画振興部 新幹線・交通対策監室 交通政策課長

新潟市 都市政策部 都市交通政策課長

北陸地方整備局 企画部 広域計画課長

北陸信越運輸局交通政策部 バリアフリー推進課長

【主な発言要旨】

佐渡汽船新潟港フェリーターミナル施設見学について

・施設は古いと伺ったが、ソフト面でしっかり対応していただいた。身体障害者手帳を提示してクレジットカードで決済する時の暗証番号を入力する装置など準備があった。一人で来た場合でもタクシーの運転手の方にインターホンまで誘導していただければしっかりとスタッフの方に引き継ぎできてスムーズにジェットフォイルまで乗ることができるということがよくわかった。

ハード面では、バリアフリートイレの便座横に視覚障害の方が利用しやすい音声案内装置を設置していただければ更に利便性も向上するのではないかと感じた。

・1階のインターホンは上のほうに通気口がありその音が結構すごくその周辺で普通に会話しててもなかなか聞き取りにくかった。スピーカー側から流れてくる声がどれだけ聞き取れるか試せていないがそこが心配である。

・トイレについては、洗浄ボタンの位置がちょっと高いのがネックかなと思われた。ドアの開閉ボタンの位置はすごく使いやすいと思う。ドアの近くにあると車椅子のフットレスト等があったりすると、車椅子の向きや角度でボタンが押しにくくなってしまいうので、広い面積のところにボタンが設置してあったので、すごく押しやすかった。

・券売機に関しては直接車椅子の方が操作するには非常に難しい高さではあるが、見えるというのはすごくいいなと思った。スタッフが券売機を操作してくれることについて、自分でその操作が確認できることは、必ずしも全て自分でできる必要はないけれど、当事者の方ができることを増やしていくということを考えるとすごくいいのではないのかなと思った。

・船内での車いすの固定に関して、進行方向に対して真横になってしまうというのがちょっと気になった。船の揺れもあり、酔いやすい方もいると思うので、可能であれば進行方向に向けて固定できるような形になればより快適に乗船することができるかなと思った。

駅の無人化に伴う安全・円滑な駅利用に必要な合理的配慮を目指して

・「切符が買えない。」、「改札口からホームまでの移動が不安。」、「列車乗車時に列車の出入り口がわからない。」、「列車降車後、駅ホームの移動が怖い。」

・駅ホームの安全対策が進まない無人駅においては、列車乗務員による見守り声かけなどのサポートが必要。

・駅階段、ホームの音声案内装置の整備について、未設置駅の解消に向け計画的に整備を進めることが必要。視覚障害のある方へ必要な音声情報を提供することで、列車に乗る前から降車後のメンタルマップをつくることができると思う。

・移動距離の長い駅ホームが存在することから、ホーム中央線の設置が必要である。特に、島式ホームでの安全な誘導路の確保の視点から、ホーム中央線の形状や色について、早急に検討を開始することが大切。

北陸信越管内におけるバリアフリー施策の取組状況等について

・えきねっとでの障害者割引券の購入は熱望していたことが実現してうれしく思っている。車いす座席を利用するにあたって駅員による乗降等のサポートは直接駅に申し込まないといけないのか。チケット購入時に自動的に申し込める仕組みなのか。

・障害者用Suicaは介助者と当事者がセットということだが、障害者単独で利用することを想定したICカードは存在するのか。

・バリアフリーの取り組み紹介や、障害者向けIC乗車券についてどのようなものなのかというイメージが掴めなかった中で障害者向けIC乗車券の開始の説明をいただき、しっかりと内容を理解できた。サービス開始前に説明いただくような場を設けることができたことは関係者間の協力の結果だと思う。

基本方針に定める移動円滑化の目標達成状況と管内の状況

・車椅子用駐車場について、近年スロープ車が増えていて横幅の広さだけでなく奥行の広さも安全面等から重要である。

・福祉タクシーの導入は進んでいるが、対応できる人員の育成・確保も課題。